

中小企業景気動向調査

[2016年1～3月期の景況 / 4～6月期の予想]

【調査要項】

実施期間: 2016年2月22日～3月4日

調査対象: 当金庫のお取引先 994社 (下記参照)

調査方法: 郵送および面談による調査

分析方法: 業況、売上、収益、資金繰り、人手などについて、「良い」(増加など)と答えた企業割合から「悪い」(減少など)と答えた企業割合を差し引いた値 (DI: Diffusion Index) を中心に分析

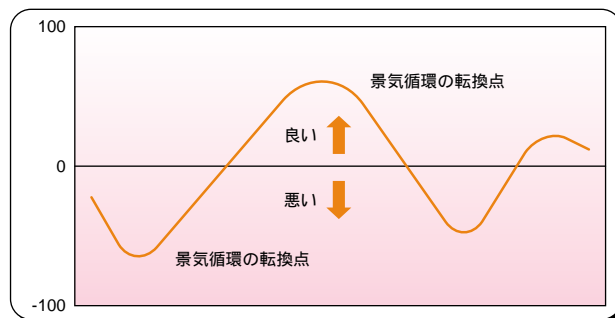
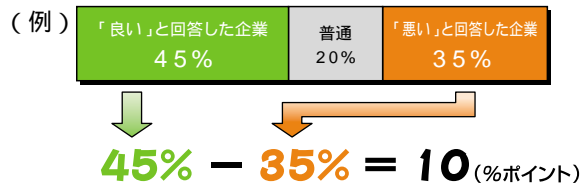
	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	不動産業	運輸業	サービス業	合計
調査先数	432	132	69	31	156	40	39	95	994
回答数	380	117	62	24	139	35	32	89	878
回答率 (%)	88.0	88.6	89.9	77.4	89.1	87.5	82.1	93.7	88.3



DIの算出方法

[業況判断DIの場合]

業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いて求める。DIがプラスかマイナスで業況を判断するほか、前回調査(3か月前)からどのように変化したかも重要で、景気循環の転換点を捉える視点で用いるのが望ましい。



結果概要

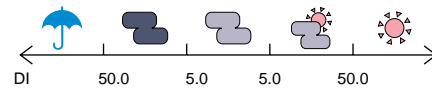
1～3月期の景況

景況感悪化。2四半期ぶりのマイナス。
 製造業は全業種でDIが悪化。非製造業は水面下に。
 自動車部品製造業は大幅悪化。トヨタ自動車の生産停止などが響く。
 増収増益の続く不動産業の堅調さ目立つ。

4～6月期の予想

予想判断DIはおおむね横ばいの見通し。非製造業はさらに悪化へ。
 挽回生産を見越す自動車部品製造業は改善予想。
 マイナス金利政策が住宅建設業者や建売分譲業者の追い風に。

〔天気マークの見方〕



業種別天気図

数値は業況判断DI

業種	10～12月期 (前回)	1～3月期 (今回)	4～6月期 (予想)	業種	10～12月期 (前回)	1～3月期 (今回)	4～6月期 (予想)
全産業	1.9	9.6	9.2	印刷	0.0	30.8	53.8
製造業	2.1	19.2	10.5	食料品	0.0	7.4	11.6
非製造業	4.9	2.4	8.2	卸売業	4.1	16.4	15.8
自動車部品	17.1	43.3	11.2	小売業	39.3	22.6	19.4
機械器具部	12.5	7.1	0.9	飲食業	9.7	25.0	13.1
金属製品	10.5	11.4	3.0	建設業	21.0	10.9	11.8
窯業・土石	12.5	46.7	33.3	不動産業	18.4	20.0	17.2
木材・木製品	33.3	62.5	75.0	運輸業	17.1	9.6	6.7
繊維製品	4.0	4.4	4.4	サービス業	15.1	2.2	1.1

業況判断

	10~12月期 (前回)	1~3月期 (今回)	4~6月期 (予想)	変化幅			
				前回	今回	今回	予想
全産業	1.9	9.6	9.2	-11.5		0.4	
製造業	2.1	19.2	10.5	-17.1		8.7	
非製造業	4.9	2.4	8.2	-7.3		-5.8	

(単位：%ポイント　　はマイナス)

〔全産業〕

1~3月期の企業の景況感を表す**業況判断DI**（業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス9.6となり、10~12月期（1.9）にくらべ11.5ポイント悪化した。悪化は三四半期ぶり。

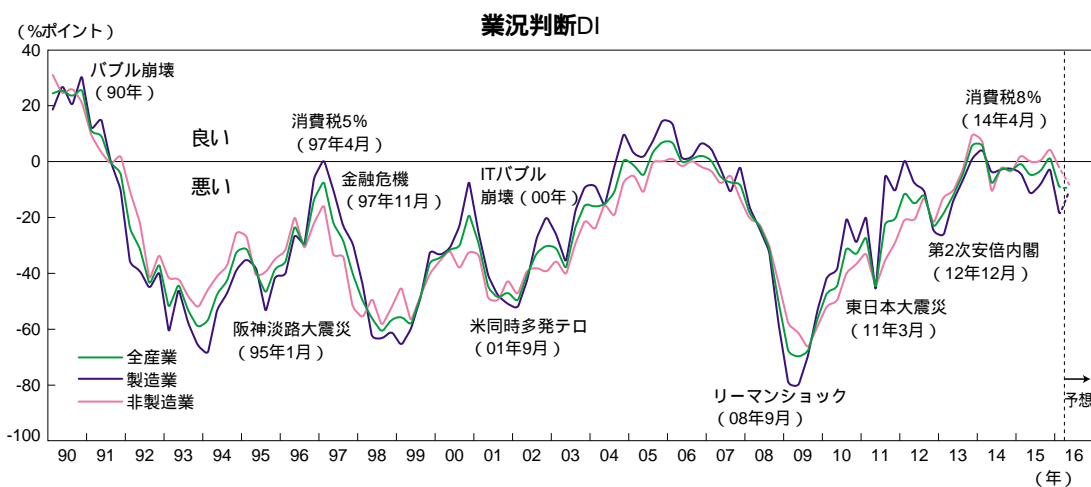
4~6月期の**予想業況判断DI**はマイナス9.2。小幅改善の形となったが、おおむね横ばいの見通し。

〔製造業〕

業況判断DIはマイナス19.2。10~12月期（マイナス2.1）にくらべ17.1ポイント悪化。

- ・ 製造業の全業種でDIが悪化。これは現在の業種分類で集計を開始した2007年10~12月期以来はじめてのこと。
- ・ 自動車部品は大幅悪化。愛知製鋼の爆発事故にともない約1週間トヨタ自動車の生産が止まった影響が出た模様。DIの水準としては、エコカー補助金が終了した2012年10~12月期以来の低さに。
- ・ 機械器具部品は国内外の景気減速を背景に三四半期ぶりの悪化。ただし、水準はプラスを維持。製造業でプラスだったのは機械器具部品のみ。

予想業況判断DIはマイナス10.5。8.7ポイントの改善の見通し。

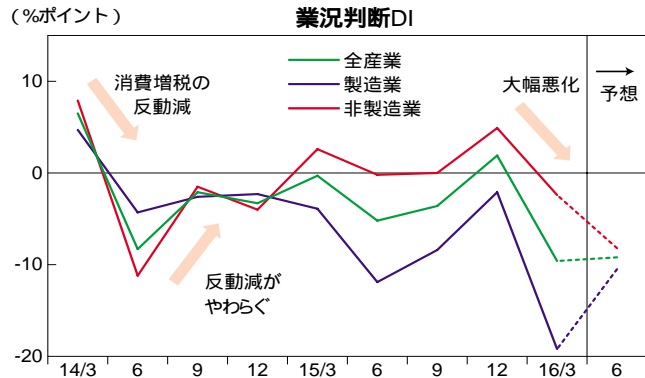


- 自動車部品、金属製品、窯業・土石で改善の予想。機械器具部品、木材・木製品、印刷、食料品は悪化を予想。
- 自動車部品はトヨタ自動車の挽回生産などを見越し、大幅な改善を予想。

〔非製造業〕

業況判断DIはマイナス2.4。10～12月期（4.9）に比べ7.3ポイント悪化。

- DIが改善したのは、小売業と不動産業。悪化したのは、卸売業、飲食業、建設業、運輸業、サービス業。
 - DIがプラスになったのは、建設業、不動産業、運輸業、サービス業。
 - 卸売業では、農畜産物・水産物卸や機械器具卸で悪化が目立つ。天候・気温の急変動やトヨタ自動車の生産停止などが響いた。
 - 飲食業は6四半期ぶりに景況感が悪化。円高や株安などで消費意欲が減退しつつある。
 - 建設業は13四半期連続のプラス。他業種にくらべて堅調。年度末の繁忙期を迎えた公共工事業が改善する一方、設備工事業や住宅建設業は悪化。
 - 不動産業は6四半期連続のプラス。
 - サービス業は個人向けサービスが苦戦。
- 予想業況判断DIはマイナス8.2。悪化の見通し。
- 建設業、不動産業、運輸業、サービス業で悪化を予想。
 - 卸売業のうち機械器具部品卸は、生産の先行き懸念を映し大幅な悪化が見込まれている。



1～3月期の業況	
改善した業種	悪化した業種
<p>製造業</p>	<p>自動車部品</p> <p>機械器具部品</p> <p>金属製品</p> <p>窯業・土石</p> <p>木材・木製品</p> <p>繊維製品</p> <p>印刷</p> <p>食料品</p>
<p>非製造業</p> <p>小売業</p> <p>不動産業</p>	<p>卸売業</p> <p>飲食業</p> <p>建設業</p> <p>運輸業</p> <p>サービス業</p>

4～6月期の予想	
改善予想の業種	悪化予想の業種
<p>製造業</p> <p>自動車部品</p> <p>金属製品</p> <p>窯業・土石</p>	<p>機械器具部品</p> <p>木材・木製品</p> <p>印刷</p> <p>食料品</p>
繊維製品は横ばい	
<p>非製造業</p> <p>卸売業</p> <p>小売業</p> <p>飲食業</p>	<p>建設業</p> <p>不動産業</p> <p>運輸業</p> <p>サービス業</p>

- ・ 日銀がマイナス金利を導入。住宅ローン金利の引下げが追い風になるとの声が住宅建設業者や建売分譲業者からあがっている。

売上額・収益

〔全産業〕

前年同期比売上額判断DI（売上額が前年同期とくらべ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス4.6〔減少〕。

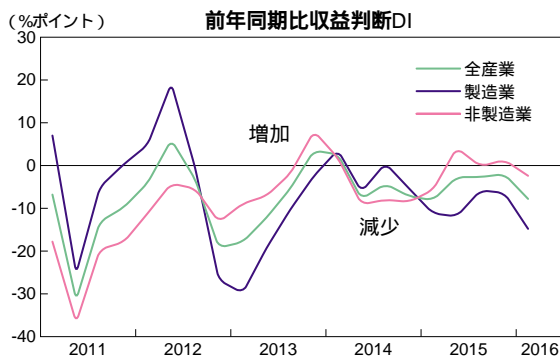
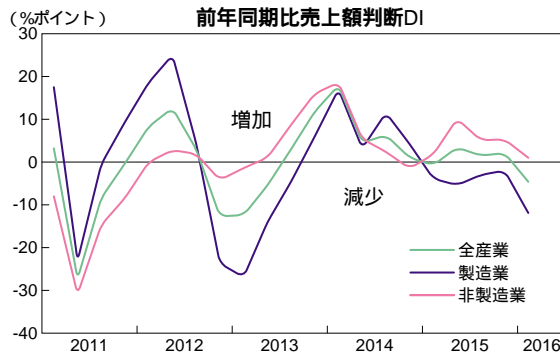
前年同期比収益判断DI（収益が前年同期とくらべ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス7.8〔減少〕。

〔製造業〕

前年同期比売上額判断DIはマイナス11.9〔減少〕。

前年同期比収益判断DIはマイナス14.8〔減少〕。

- ・ 増収増益は金属製品と食料品。
- ・ 自動車部品は6四半期連続の減収減益。



		前年同期に比べた売上額	
		増加した業種	減少した業種
製造業	↑	機械器具部品 金属製品 食料品	自動車部品 窯業・土石 木材・木製品 繊維製品 印刷
		卸売業 建設業 不動産業 サービス業	小売業 運輸業
		飲食業は横ばい	

		前年同期に比べた収益	
		増加した業種	減少した業種
製造業	↑	金属製品 食料品	自動車部品 機械器具部品 窯業・土石 木材・木製品 繊維製品 印刷
		不動産業 運輸業 サービス業	卸売業 小売業 飲食業
		建設業は横ばい	

〔非製造業〕

前年同期比売上額判断DIは1.0〔増加〕。

前年同期比収益判断DIはマイナス2.4〔減少〕。

- ・増収増益は不動産業とサービス業。ともに5四半期連続。
- ・運輸業は10四半期ぶりの減収。

販売価格・仕入価格

〔全産業〕

販売価格判断DI（販売価格が3カ月前とくらべ「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス4.3〔下落〕。

仕入価格判断DI（仕入価格が3カ月前とくらべ「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた値）は6.4〔上昇〕となった。

- ・円高の進行で輸入価格が押し下げられ、原材料仕入価格などへの上昇圧力が弱まっている。

〔製造業〕

販売価格判断DIはマイナス8.4〔下落〕。

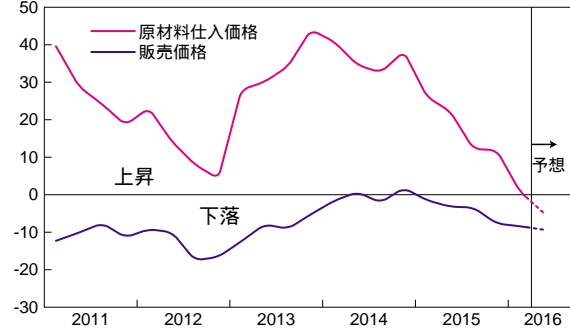
原材料仕入価格判断DIは0.9〔上昇〕。

〔非製造業〕

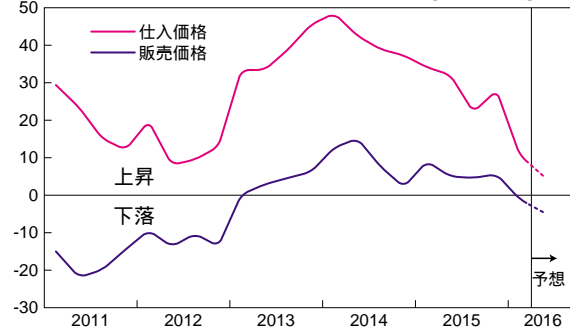
販売価格判断DIはマイナス1.1〔下落〕。

仕入価格判断DIは10.7〔上昇〕。

(%ポイント) 販売価格判断DI・原材料仕入価格判断DI(製造業)



(%ポイント) 販売価格判断DI・仕入価格判断DI(非製造業)



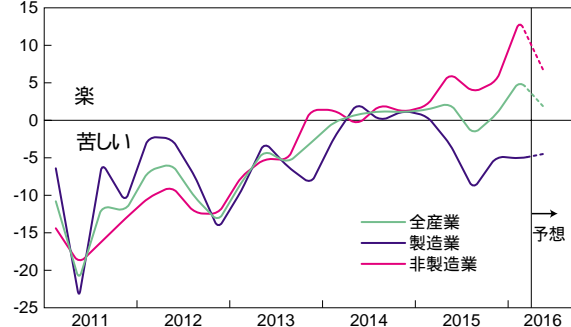
資金繰り

〔全産業〕

資金繰り判断DI（資金繰りが3カ月前とくらべ「楽」と答えた企業の割合から「苦しい」と答えた企業の割合を差し引いた値）は5.3〔楽〕。

予想資金繰り判断DIは1.9〔楽〕。

(%ポイント) 資金繰り判断DI



〔製造業〕

資金繰り判断DIはマイナス5.1〔苦しい〕。

予想資金繰り判断DIはマイナス4.5〔苦しい〕。

〔非製造業〕

資金繰り判断DIは13.3〔楽〕。

予想資金繰り判断DIは6.8〔楽〕。

雇用

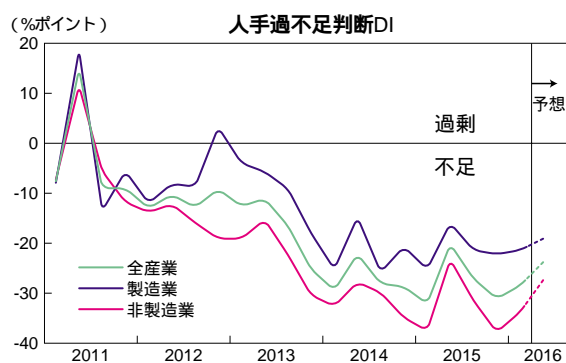
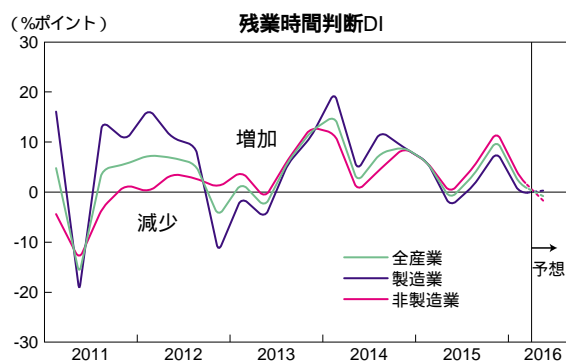
〔全産業〕

残業時間判断DI（残業時間が3カ月前とくらべ「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いた値）は1.5〔増加〕。

予想残業時間判断DIはマイナス0.8〔減少〕。

人手過不足判断DI（人手が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス28.5〔不足〕。人手不足感は収まっていない。

予想人手過不足判断DIはマイナス23.8〔不足〕となっている。



		3カ月前と比べた残業時間	
		増加した業種	減少した業種
製造業	↑	機械器具部品 木材・木製品 繊維製品 印刷 食料品	自動車部品 金属製品 窯業・土石
		非製造業	↑

		人手過不足感	
		人手過剰の業種	人手不足の業種
製造業	4人	印刷は過不足なし	自動車部品 機械器具部品 金属製品 窯業・土石 木材・木製品 繊維製品 食料品
		非製造業	4人

〔製造業〕

残業時間判断DIはマイナス0.3〔減少〕。予想残業時間判断DIは0.3〔増加〕。

人手過不足判断DIはマイナス21.4〔不足〕。予想人手過不足判断DIはマイナス19.1〔不足〕。

〔非製造業〕

残業時間判断DIは2.9〔増加〕。予想残業時間判断DIはマイナス1.7〔減少〕。

人手過不足判断DIはマイナス33.8〔不足〕。予想人手過不足判断DIはマイナス27.4〔不足〕。

設備

〔全産業〕

設備過不足判断DI（設備が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス5.2〔不足〕となった。

予想設備過不足判断DIはマイナス8.3〔不足〕。

1～3月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は30.5%。（10～12月期は30.0%）

4～6月期に設備投資を計画している企業は27.0%。

〔製造業〕

設備過不足判断DIはマイナス3.0〔不足〕。

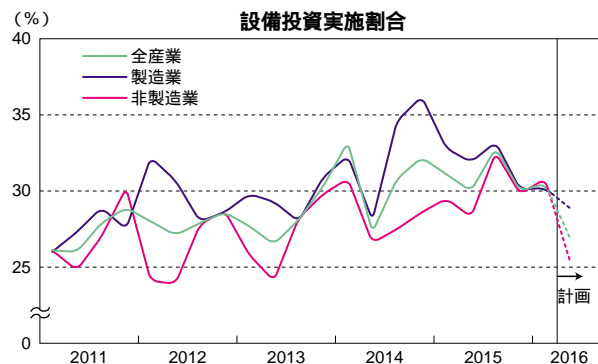
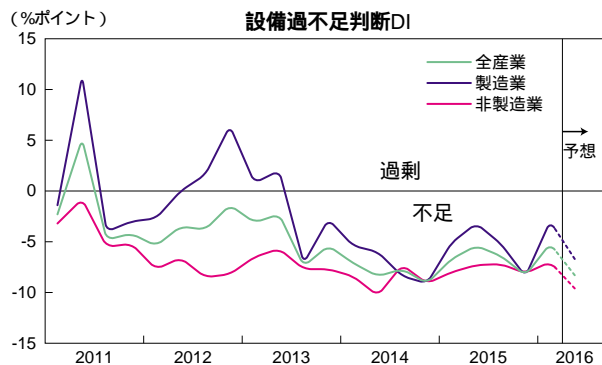
予想設備過不足判断DIはマイナス6.7〔不足〕。

1～3月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は30.2%。（10～12月期は30.1%）

- ・内訳は、「機械・設備の新増設」が48.6%、「機械・設備の更改」が34.6%、「車両」が23.4%、「事務機器」が17.8%などとなっている。

- ・設備投資の目的は、「老朽化にともなう更新」が43.0%、「能力増強」が42.1%、「合理化・省力化」が20.6%などとなった。

4～6月期に設備投資を計画している企業は28.9%。



〔非製造業〕

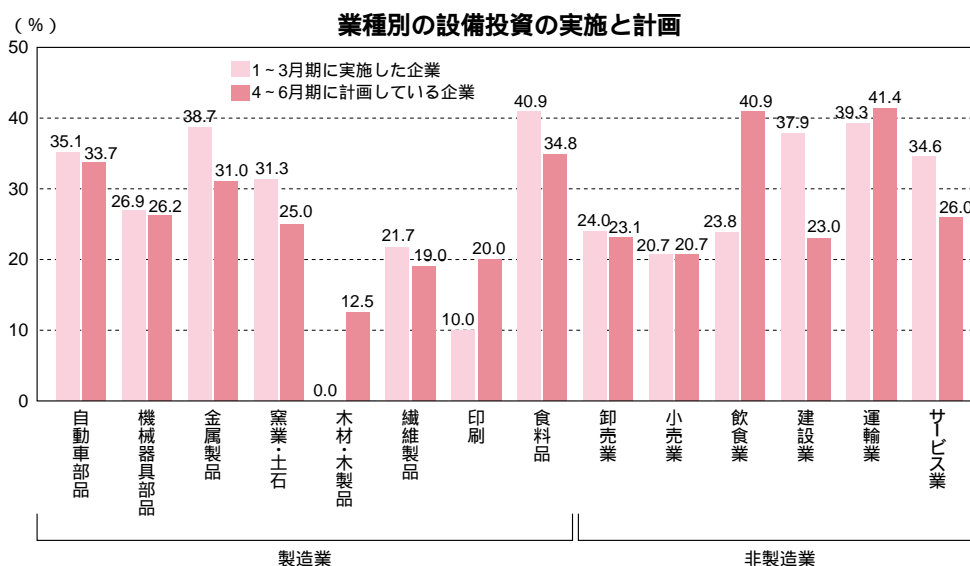
設備過不足判断DIはマイナス7.0〔不足〕。

予想設備過不足判断DIはマイナス9.6〔不足〕。

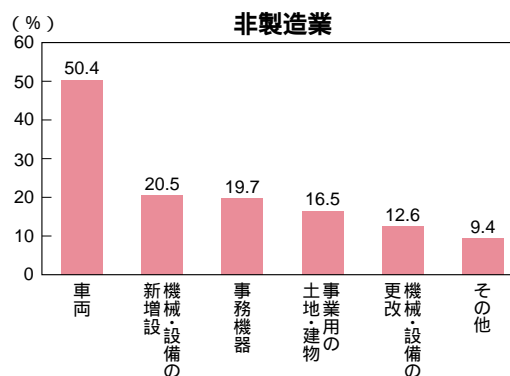
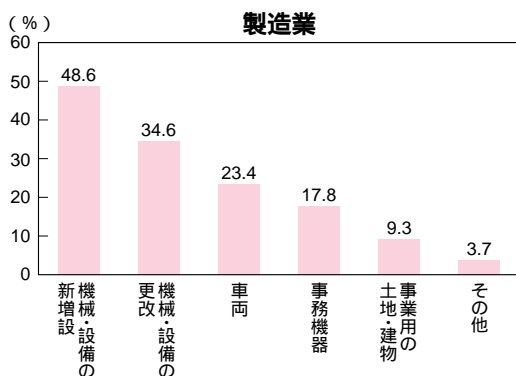
1～3月期に**設備投資（リース・レンタルを含む）を実施**した企業は30.8%。（10～12月期は29.8%）

- ・内訳は、「**車両**」が50.4%、「**機械・設備の新增設**」が20.5%「**事務機器**」が19.7%、「**事業用土地・建物**」が16.5%などとなっている。
- ・設備投資の目的は、「**老朽化にともなう更新**」が51.2%、「**合理化・省力化**」が18.9%、「**販売拡大**」が18.1%、「**競争力の維持・強化**」が12.6%、などとなった。

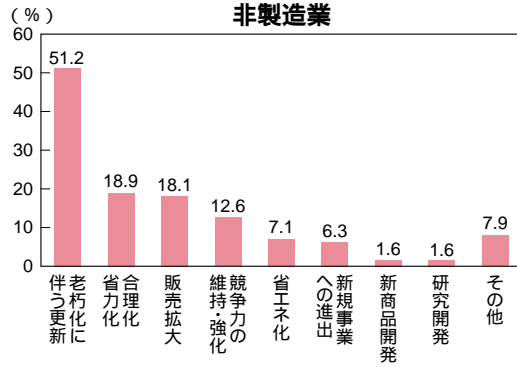
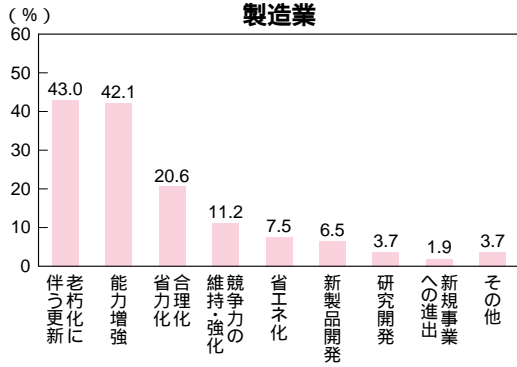
4～6月期に**設備投資を計画**している企業は25.5%。



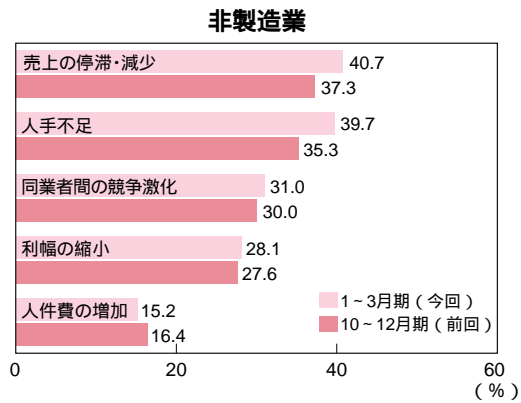
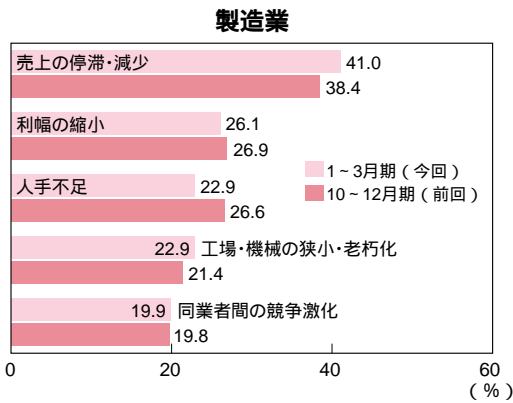
1～3月期の設備投資の内訳



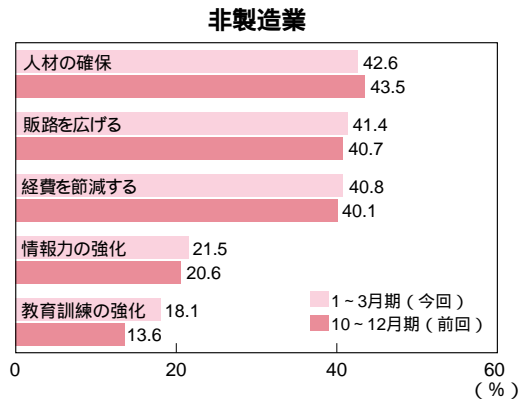
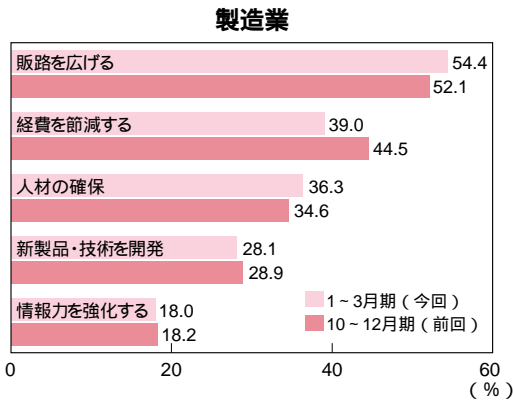
1～3月期の設備投資の主な目的



経営上の問題点



当面の重点経営施策



業種別動向

製造業

自動車部品

1～3月期の景況 景況感が大幅悪化、爆発事故の影響で

4～6月期の予想 予想DI改善へ、挽回生産など見越す

1～3月期の景況

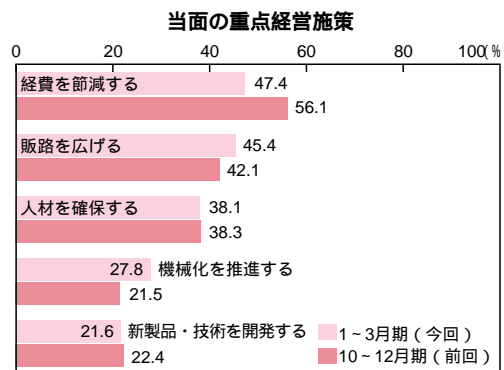
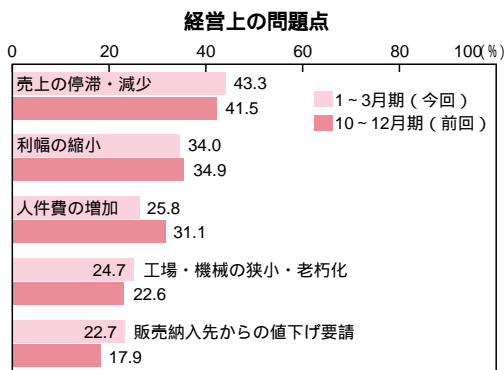
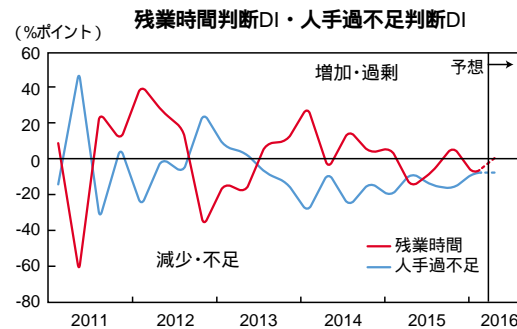
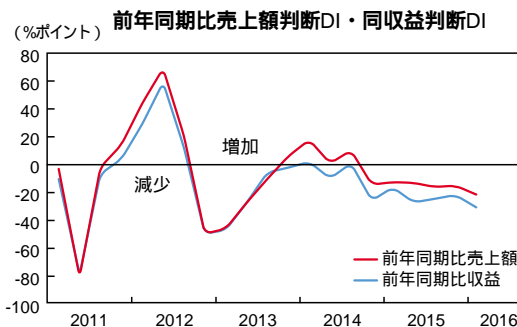
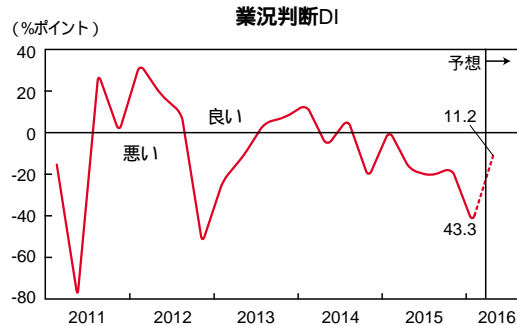
業況判断DIは 43.3となり、10～12月期（ 17.1）にくらべ大幅に悪化した。悪化は2四半期ぶり。DIの水準としては、エコカー補助金が終了した2012年10～12月期以来の低さ。愛知製鋼の爆発事故にともない約1週間トヨタ自動車の生産が停止した影響が出ている。

足元の動向を示す前年同期比売上額判断DIは 21.4〔減少〕、同収益判断DIは 30.6〔減少〕。減収減益を余儀なくされた企業が少なくないとみられる。減収減益は6四半期連続。

経営上の問題点をみると、「販売納入先からの値下げ要請」がトップ5にランクインした。この項目のランクインは2014年7～9月期以来のこと。

4～6月期の予想

予想業況判断DIは 11.2。1～3月期にくらべ改善する見通し。車両減産の挽回生産が予定されており、売上や収益は上向きそうだが、判断DIは依然マイナス領域にとどまり、先行き不透明な部分も残している。



1～3月期の景況 3四半期ぶりに景況感悪化、国内外の景気減速が響く
 4～6月期の予想 予想DIも悪化へ、先行き慎重な構え目立つ

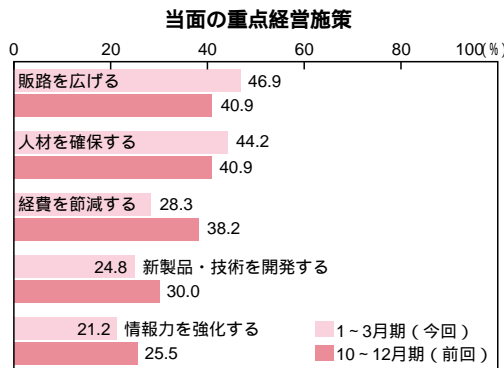
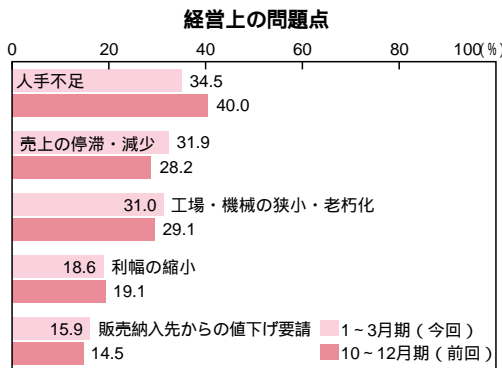
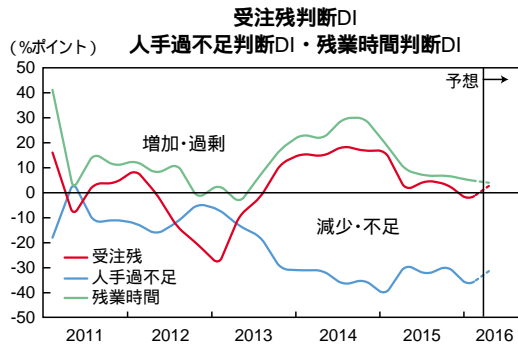
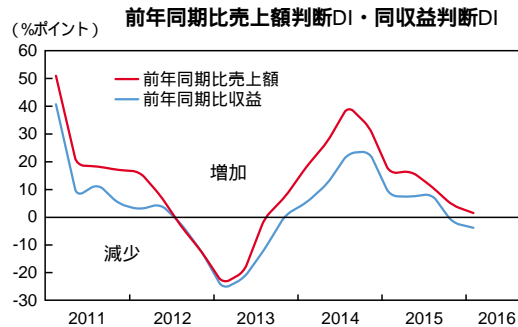
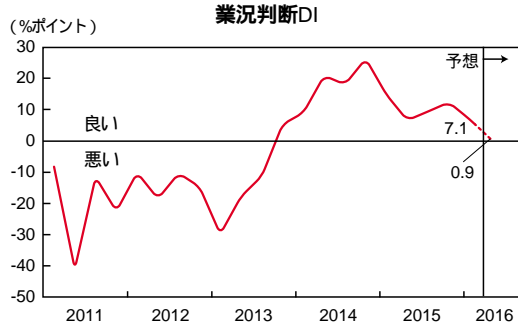
■1～3月期の景況

業況判断DIは7.1。10～12月期（12.5）にくらべ悪化した。悪化は3四半期ぶり。為替の変動や国内外の景気減速で設備投資意欲が減退している影響を受けたとみられる。ただし、水準はプラスを維持し、底堅い部分もみられる。回答企業の35%が業況を「良い」としている。製造業でDIがプラスだったのは機械器具部品のみ。

前年同期比売上額判断DIは辛うじてプラス〔増加〕、同収益判断DIは2四半期連続のマイナス〔減少〕。これまでプラス〔増加〕が続いてきた受注残判断DIがマイナス〔減少〕に転じた。

■4～6月期の予想

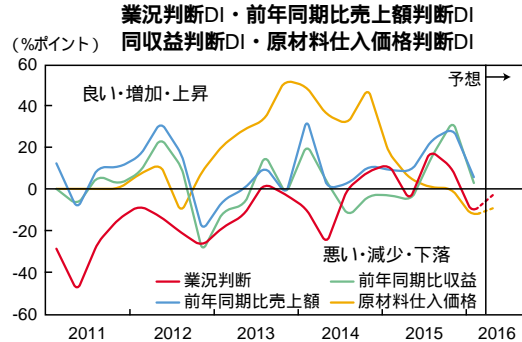
予想業況判断DIは0.9と、さらに悪化する見通し。今後の設備投資動向などが見極めにくくなっており、慎重に構える企業が目立つ。



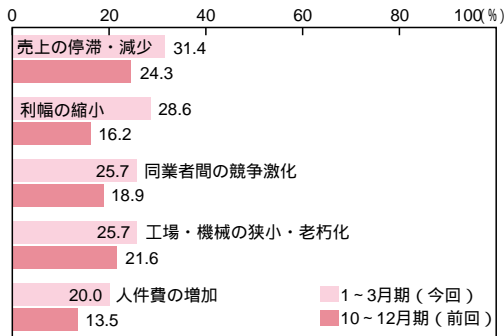
▶ 【金属製品】

業況判断DIは 11.4。10～12月期（10.5）にくらべ大幅に悪化。悪化は2四半期連続。3四半期ぶりにマイナス領域に沈んだ。鋼材などの価格下落で原材料仕入価格の低下は続いているようだが、売上が伸び悩んだことで収益減少を招いたもよう。

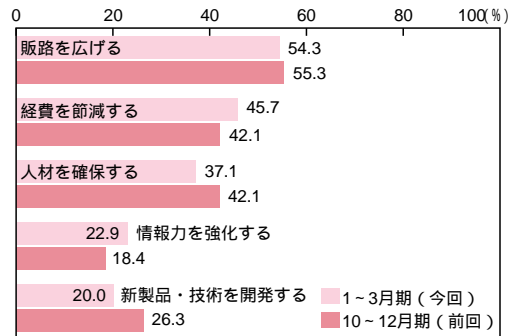
予想業況判断DIは 3.0と、水面下ながら改善の予想。



経営上の問題点



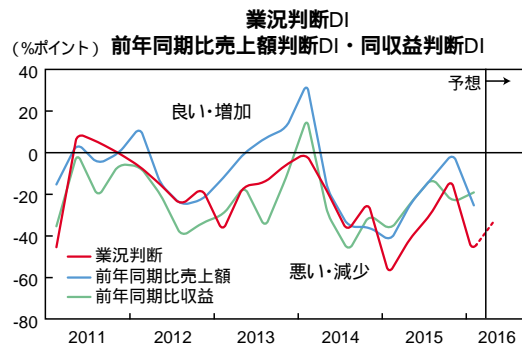
当面の重点経営施策



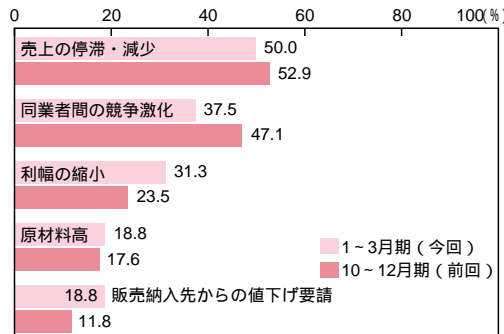
▶ 【窯業・土石】

業況判断DIは 46.7。10～12月期（12.5）にくらべ大幅に悪化した。2012年1～3月期以来、DIのマイナスが続いており、冴えない業況を余儀なくされている。前年同期比売上額判断DIは 25.0、同収益判断DIは 18.8。減収減益が続いている。重点経営施策では、「販路を広げる」のポイントが急減するとともに「提携先を見つける」が急増しているのが目につく。

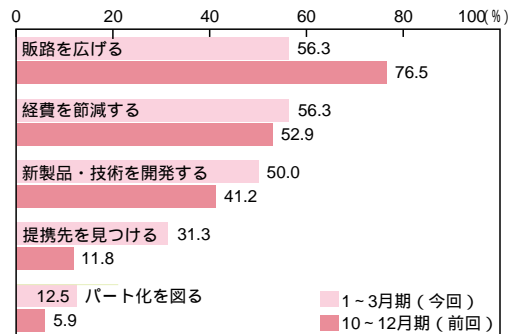
予想業況判断DIは 33.3。水面下ながら改善の予想。



経営上の問題点



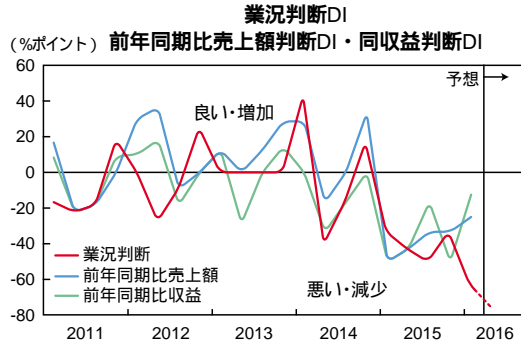
当面の重点経営施策



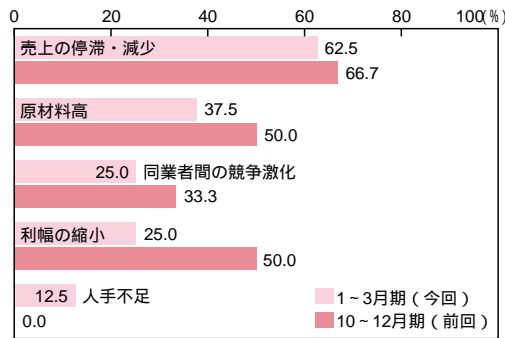
▶ 【木材・木製品】

業況判断DIは 62.5。10～12月期（ 33.3）に比べ悪化した。DIは依然として深いマイナス領域にあって、厳しい業況を強いられている。経営環境に改善がみられない。

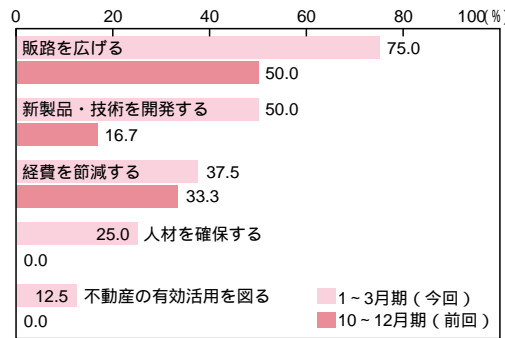
予想業況判断DIは 75.0。業況を「良い」と予想した企業は1社もなかった。



経営上の問題点



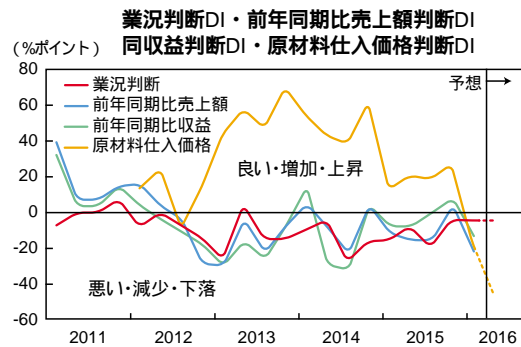
当面の重点経営施策



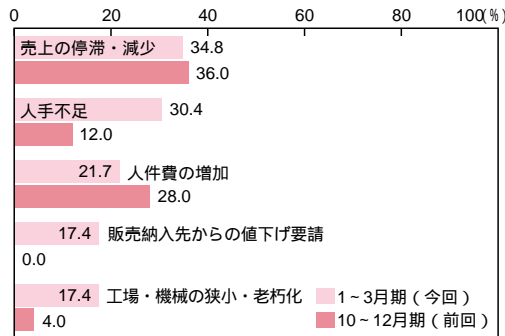
▶ 【繊維製品】

業況判断DIは 4.4。10～12月期（ 4.0）とほとんど変わらず、横ばい推移した。円高の進行で原材料仕入価格には低下傾向がみられるが、収益の改善には繋がっていない。人手不足感はさらに拡大、残業時間も増えている。

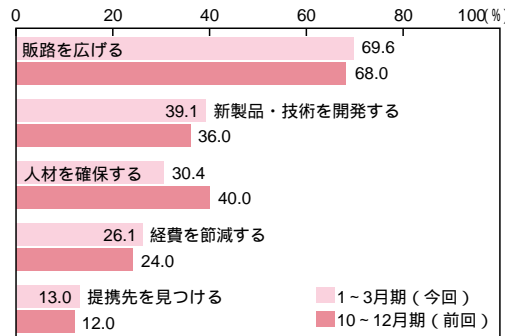
予想業況判断DIは 4.4。



経営上の問題点



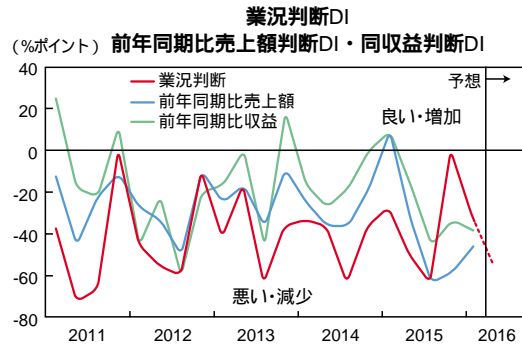
当面の重点経営施策



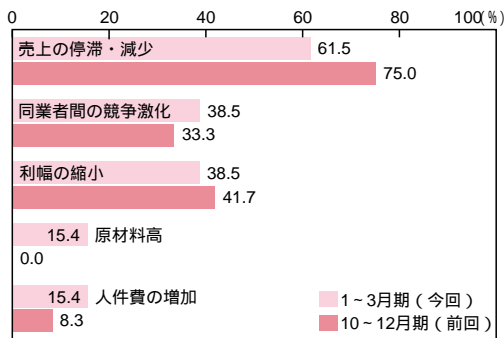
■【印刷】

業況判断DIは 30.8。10～12月期に比べ大幅な悪化がみられた。悪化は2四半期ぶり。前年同期比売上判断DIは 46.1〔減少〕、同収益判断DIは 38.5〔減少〕。売上や収益も振るわず、厳しい経営環境が続いている。

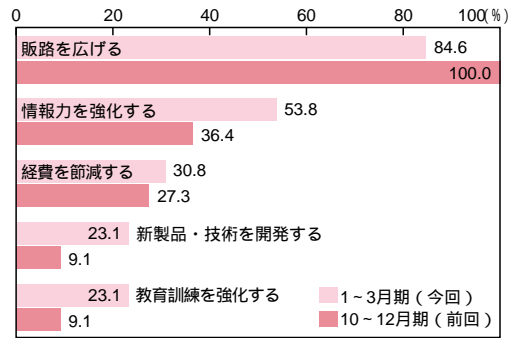
予想業況判断DIは 53.8と、さらに悪化する見通し。



経営上の問題点



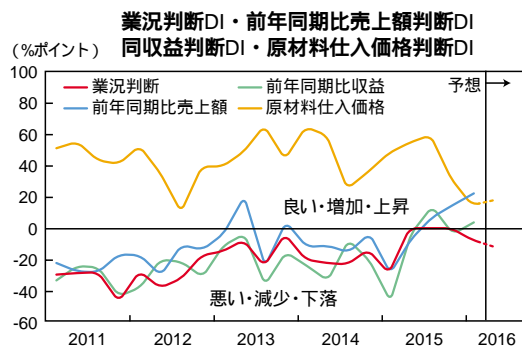
当面の重点経営施策



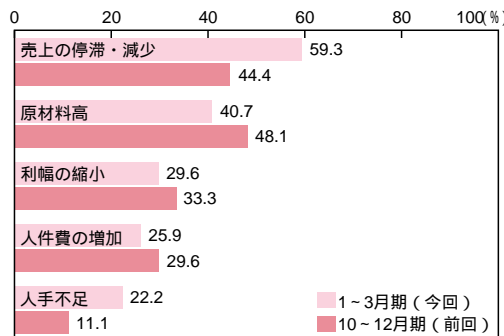
■【食料品】

業況判断DIは 7.4となり、10～12月期に比べ悪化した。しかし、前年同期比売上判断DIはプラス〔増加〕を維持するとともに、同収益DIは2四半期ぶりのプラスに転じている。円高の進行で輸入原材料の値上げに歯止めが掛かっているのが寄与したのではないかと。

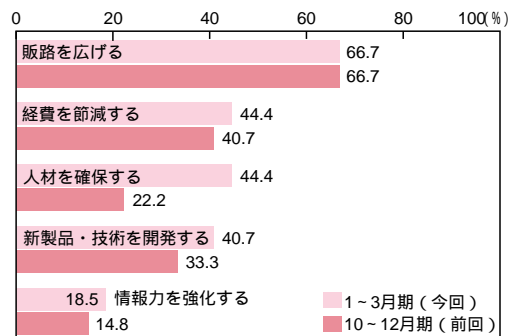
予想業況判断DIは 11.6。悪化の予想。



経営上の問題点



当面の重点経営施策



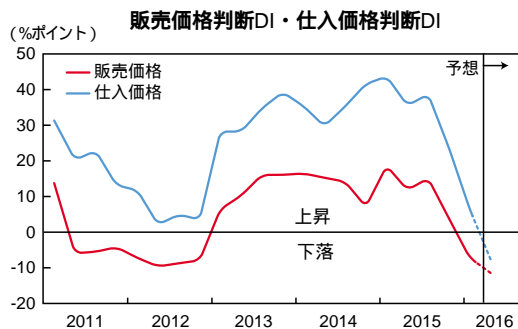
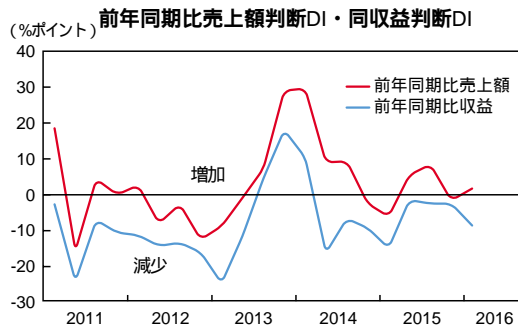
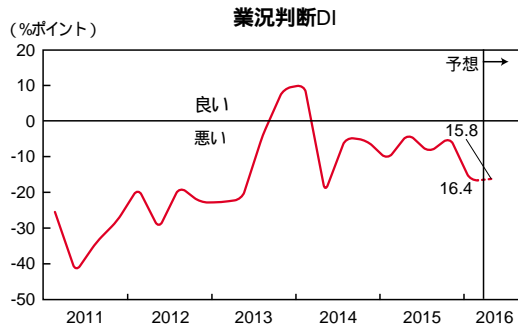
1～3月期の景況 判断DI悪化、気温の急変動や車両生産停止が影響か
 4～6月期の予想 全体景況は横ばい予想、機械器具部品は大幅悪化へ

▶ 1～3月期の景況

業況判断DIは 16.4と、10～12月期（4.1）にくらべ悪化した。2四半期ぶりの悪化。農畜産物・水産物卸や機械器具卸で大幅なDIの低下が目立ち、天候・気温の急変動やトヨタ自動車の生産停止が影響したもよう。最近の円高で輸入価格が押し下げられ、仕入価格への上昇圧力は弱まっている。仕入価格判断DIに急低下がみられる。それにともない販売価格の上昇傾向にもブレーキがかかり、判断DIは下落領域に転じている。

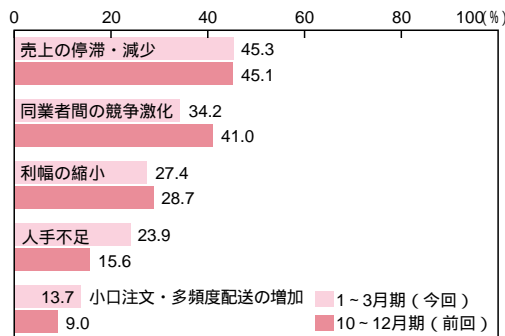
▶ 4～6月期の予想

予想業況判断DIは 15.8。1～3月期とあまり変わらない。ただし、機械器具卸は大幅悪化が見込まれており、不透明な生産の先行きを映す結果となった。

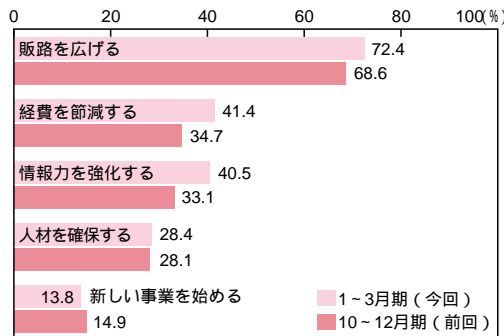


業況判断DI	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月 (予想)
農畜産物・水産物	19.1	10.5	21.0	21.0
食料・飲料	8.3	36.4	38.4	0.0
機械器具	32.0	21.4	11.1	11.6
建設材料	36.3	9.6	0.0	5.3

経営上の問題点



当面の重点経営施策



1～3月期の景況 仕入価格下落で判断DI改善、減収減益は続く

4～6月期の予想 マインド変化せず、施策に「教育訓練の強化」など

■ 1～3月期の景況

業況判断DIは 22.6となり、10～12月期（ 39.3）に比べ改善した。改善は2四半期ぶり。

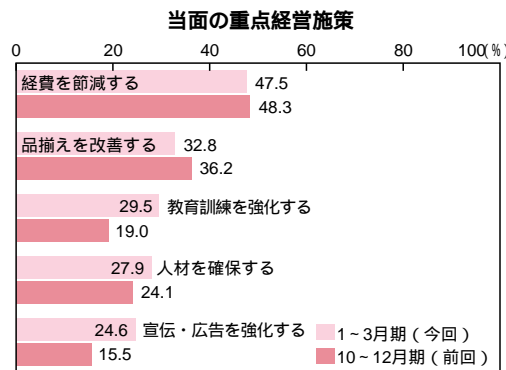
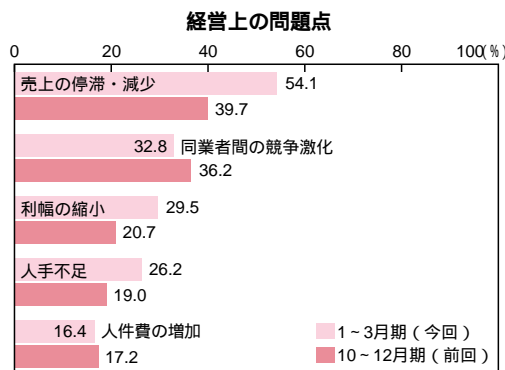
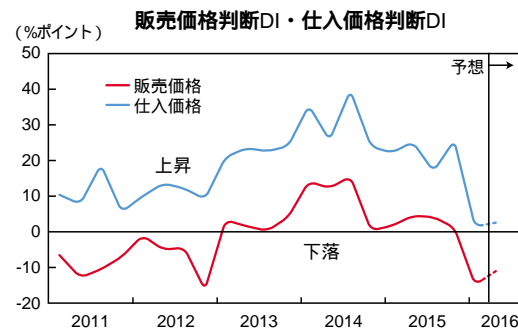
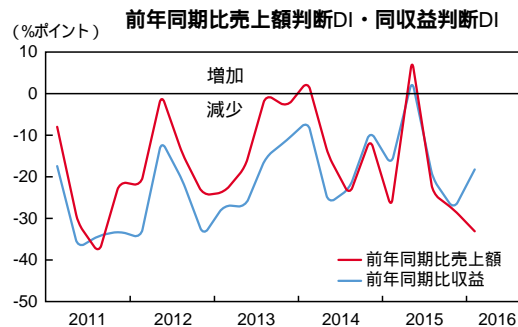
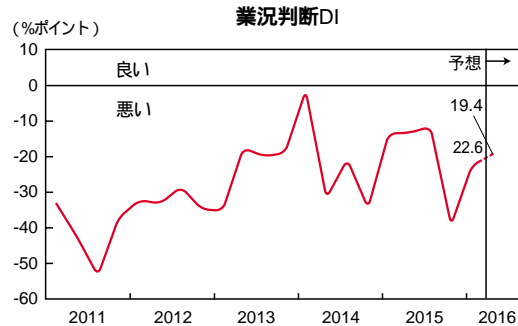
DIは依然マイナス領域にあって、低調感の否めない状態だが、これまで続けてきた仕入価格の上昇傾向に歯止めが掛かったことで、マインドが和らいだのではないかと。仕入価格判断DIをみると、「上昇」と「下落」の回答がほぼ拮抗する1.5まで低下している。もっとも、販売価格判断DIにも低下がみられ、利幅が広がったわけではなさそうだ。

売上額と収益の動向を示す判断DIは、ともにマイナス〔減少〕のまま、3四半期連続の減収減益となった。

■ 4～6月期の予想

予想業況判断DIは 19.4。1～3月に比べ改善する形となったが、変化幅は小さく、マインドにあまり変化はなさそうである。

重点経営施策をみると、「教育訓練の強化」「宣伝・広告の強化」のポイント上昇が目につく。



1～3月期の景況 6四半期ぶりに景況感が悪化、売上額が伸びず
 4～6月期の予想 マインド持ち直しへ、施策に「店舗の改装」など増える

■ 1～3月期の景況

業況判断DIは 25.0と、10～12月期にくらべ悪化した。悪化は6四半期ぶり。悪化幅の15.3ポイントは非製造業のなかで最大。前回調査時の予想（16.7）を下まわる水準まで低下した。円高や株安などで消費意欲が減退しつつあることが影響したのではないかと。

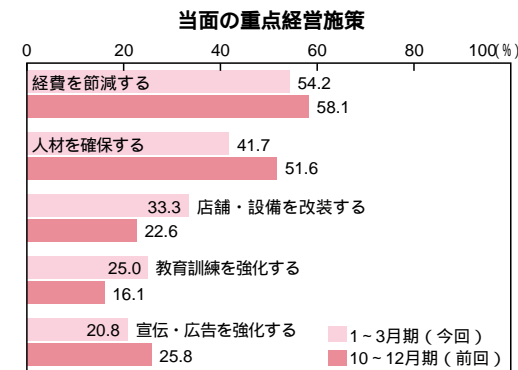
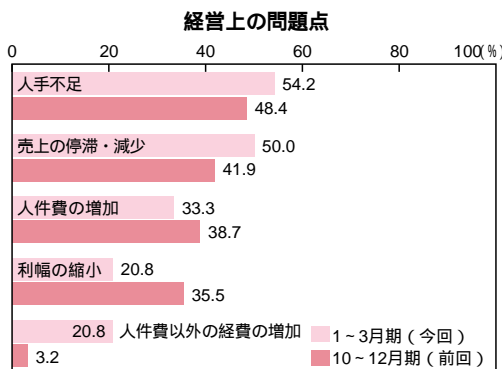
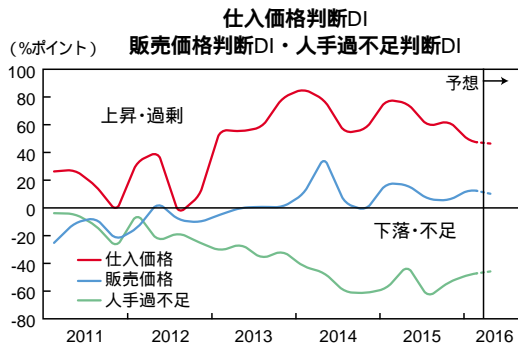
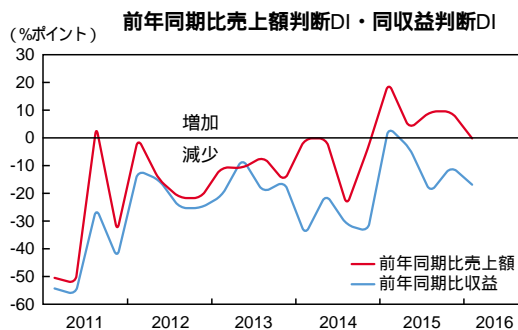
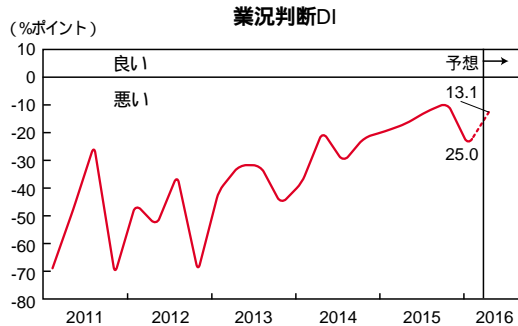
足元の動向を示す前年同期比売上額判断DIは0.0。これまでの増収が鈍化した格好。同収益判断DIは 16.6〔減少〕。仕入価格の上昇傾向は以前にくらべ弱まっているようだが、いまのところ収益環境に目立った改善はみられない。減益は4四半期連続。

経営上の問題点では「人手不足」と「売上の停滞・減少」を指摘する企業が増えている。人手過不足判断DIは 47.9〔不足〕。

■ 4～6月期の予想

予想業況判断DIは 13.1。1～3月期にくらべ11.9ポイント改善する見通し。マインドに持ち直しがみられそうだ。

当面の重点経営施策をみると、「店舗・設備の改装」「教育訓練の強化」をあげるところが増えている。



1～3月期の景況 13四半期連続のプラス、公共工事業が改善

4～6月期の予想 予想DI悪化へ、金利低下が住宅建設の追い風に

■ 1～3月期の景況

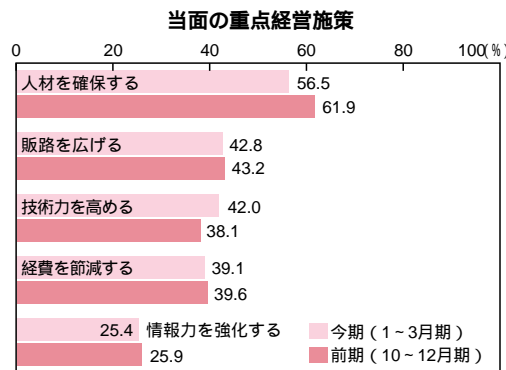
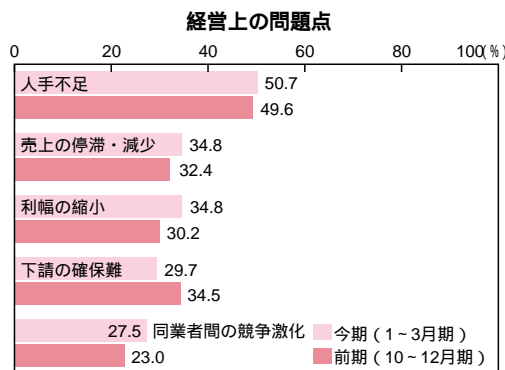
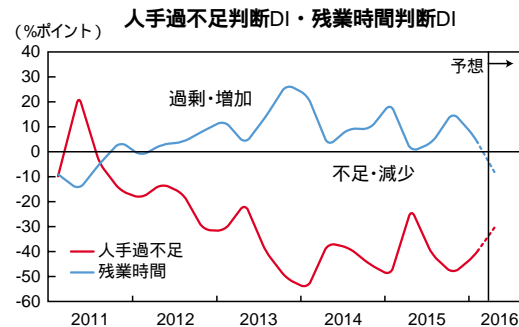
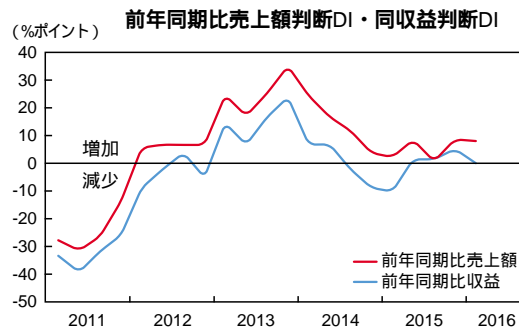
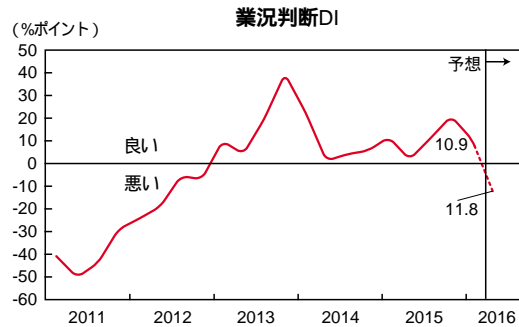
業況判断DIは10.9となり、10～12月期(21.0)にくらべ悪化した。設備工事業や住宅建設業でDIの低下がみられる一方、年度末の繁忙期を迎えた公共工事業でDIの上昇が確認された。全体としては13四半期連続のDIプラス。他業種に比較して堅調さがうかがえる。売上や収益はおおむね横ばいで推移したもよう。

人手不足は相変わらず続いており、経営上の問題点でもトップにあがっている。とくに「技術者と職人が不足」との声が強い。

■ 4～6月期の予想

予想業況判断DIは 11.8と、1～3月期にくらべ悪化する見通し。

景気先行き懸念が広がるなか、設備工事業は悪化を予想。予算執行の端境期の公共工事業も大幅な悪化。一方、住宅ローン金利の低下が住宅建設の追い風になりそうな住宅建設業では改善が見込まれている。



1～3月期の景況 業況判断DIは小幅改善、増収増益の基調つづく

4～6月期の予想 予想は横ばい、「マイナス金利で有利に」の声も

▶ 1～3月期の景況

業況判断DIは20.0となり、10～12月期（18.4）にくらべ小幅に改善した。改善は2四半期ぶり。DIのプラスは6四半期連続。

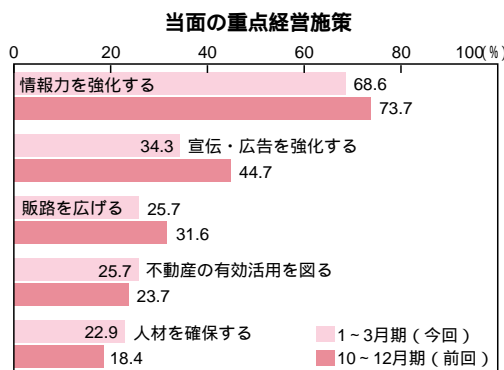
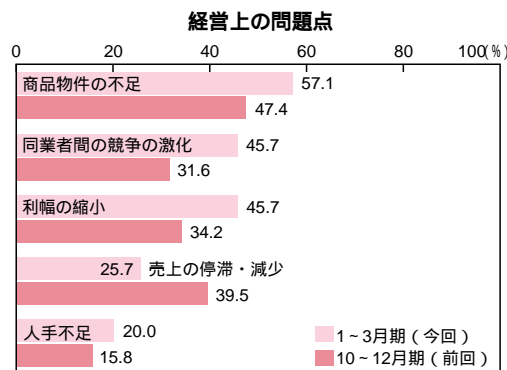
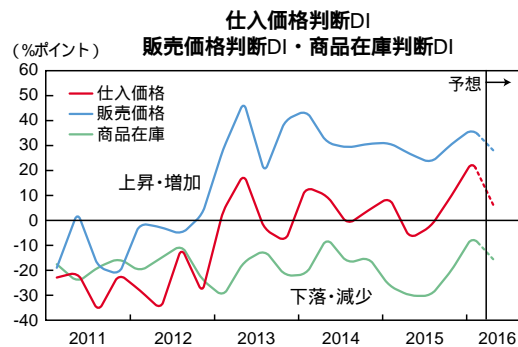
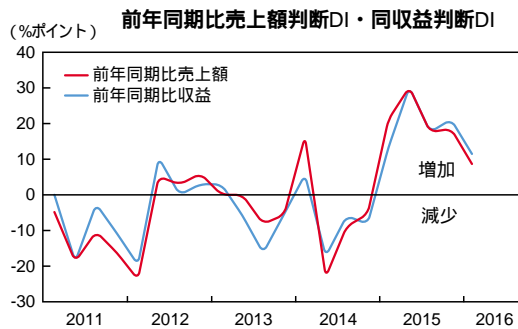
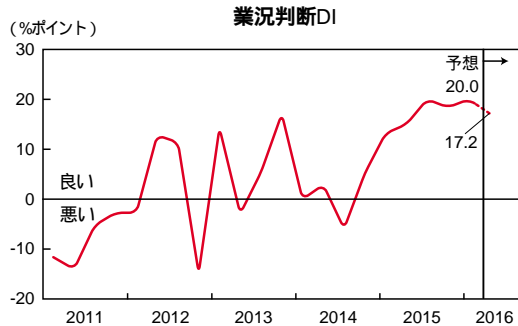
足元の動向をあらわす前年同期比売上額判断DIは8.6〔増加〕、同収益判断DIは11.4〔増加〕。増収増益が5四半期続いている。2007年10～12月期以来8年ぶりのこと。

経営上の問題点には「商品物件の不足」をあげる企業が6割弱に達しており、低金利を背景とした不動産需要は底堅いとみられる。

▶ 4～6月期の予想

予想業況判断DIは17.2。1～3月期にくらべ悪化する見通しとなったが、悪化幅は小さく、景況感はおおむね横ばい推移するとみられる。

建売分譲業者からは「日銀のマイナス金利政策は、住宅ローン金利の引き下げを通じて有利に働く」との声も上がっている。



1～3月期の景況 2年ぶりの減収、トヨタの生産停止も影響

4～6月期の予想 挽回生産で増収を見込むも、マインドは後退

▶ 1～3月期の景況

業況判断DIは9.6。10～12月期（17.1）に
くらべ7.5ポイント低下。マインドは鈍化し
た格好だが、昨年4～6月期の0.0を挟んでDI
は7四半期連続でプラス領域にある。

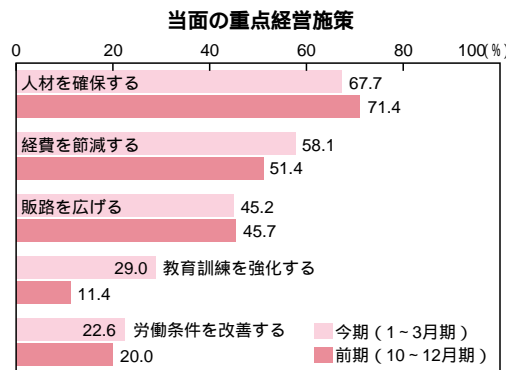
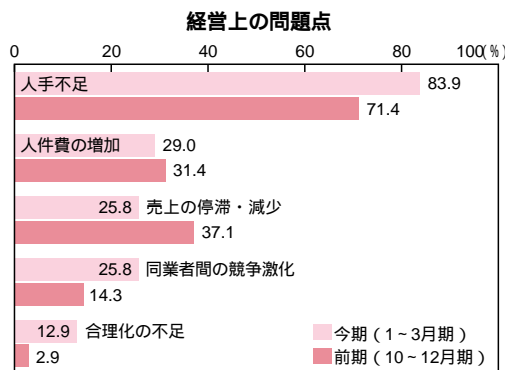
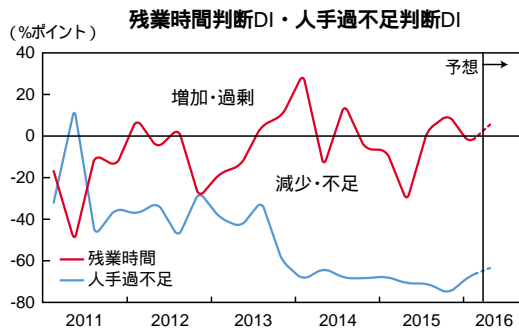
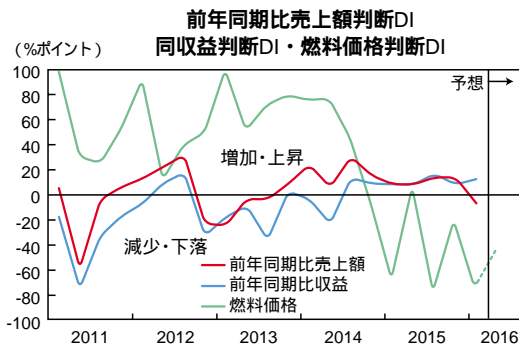
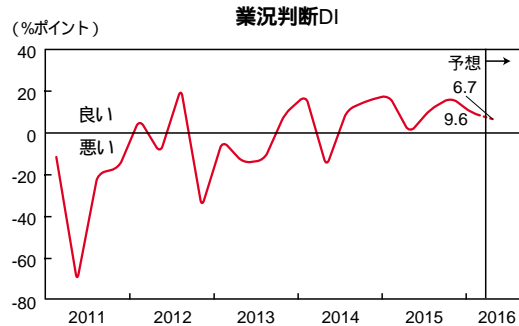
前年同期比売上判断DIは 6.4〔減少〕、
同収益判断DIは12.9〔増加〕。2013年10～12
月期以来、続いてきた売上増加が途切れ、
減収増益に。トヨタ自動車の生産停止で部
品輸送などに影響が出た。

人手過不足判断DIは 64.5〔不足〕。人手
（ドライバー）不足は依然として収まらず、
問題点でも「人手不足」がトップにあがっ
ている。

▶ 4～6月期の予想

トヨタ自動車の挽回生産を見越して売上
や収益は再び上向き見込みだが、予想業況
判断DIは6.7と、マインドは少し後退しそ
うだ。

重点経営施策をみると、「教育訓練の強化」
をあげる企業の増加が目立つ。



1～3月期の景況 2四半期ぶりにDI悪化、個人向けが苦戦

4～6月期の予想 景況感は横ばい予定、法人向けは大幅悪化へ

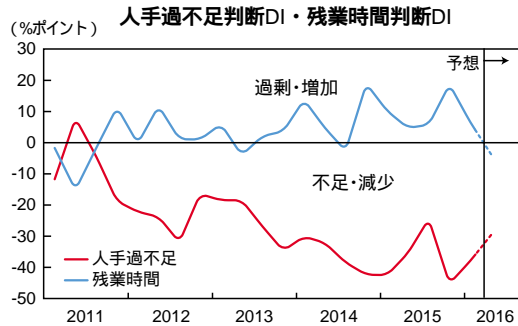
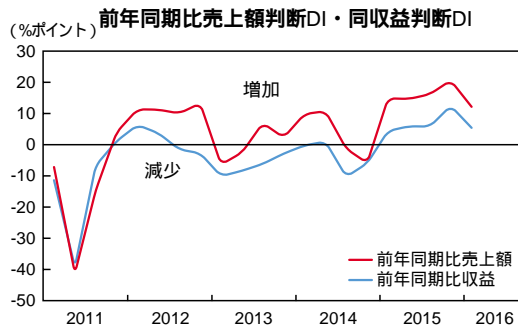
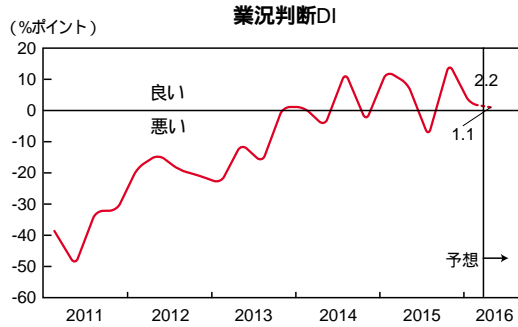
■1～3月期の景況

業況判断DIは2.2と、10～12月期（15.1）にくらべ悪化した。悪化は2四半期ぶり。法人向けサービス・個人向けサービスともに悪化。個人向けは再びマイナスに。

売上額や収益の増勢にも鈍化がみられ、経営上の問題点では「売上の停滞・減少」をあげる企業が急増している。

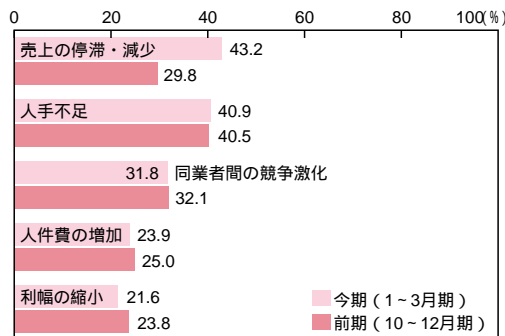
■4～6月期の予想

予想業況判断DIは1.1。1～3月期とほとんど変わらず、景況感は横ばい推移する見通し。法人向けサービスは0.0。個人向けサービスは2.8と、大幅に回復しプラスへ浮上する。

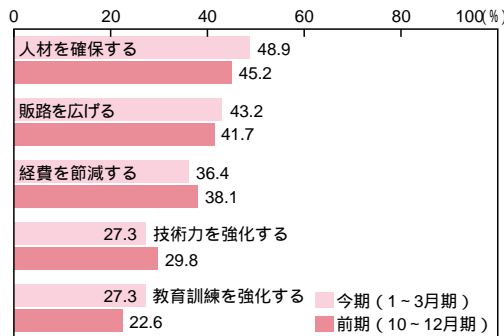


業況判断DI	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月 (予想)
法人向けサービス	0.0	20.0	15.1	0.0
個人向けサービス	20.0	8.4	16.7	2.8

経営上の問題点



当面の重点経営施策



お客様から寄せられた声

* 景気動向調査表の通信欄に記載のあった意見を紹介しています。

製造業のお客様

愛知製鋼の爆発事故でトヨタ自動車の生産ラインがストップ。その影響が出ている。(自動車部品)

トヨタ自動車の1週間の稼働停止で、2割程度の減収減益になった。(自動車部品)

単価が安いと、人件費や経費の比率が高くなり、利益を出すのに苦労している。(自動車部品)

新規の仕事を受注した場合、設備導入後から生産開始までの期間が長すぎて、その間の資金繰りが苦しい。(自動車部品)

ベテラン社員が退職。増員した。(自動車部品)

円高で海外子会社の業績が改善。(専用機部品)

原油価格の下落でコストが減少。(粘土瓦)

景気が上向いてきたこともあり、顧客単価が上昇している。(歯科技工)

新入社員のモラルの低下が著しい。(金属熱処理加工)

新規の受注はあるものの、価格、仕様、

納期などで折り合わないことが多い。小口で雑多な仕事に忙しいだけで、利益につながりにくい。(ポンプ部品)

新東名の開通でサービスエリアとの取引が始まった。(業務用ラーメン)

労務費が上昇している。労務政策の強化で採用難に陥っている。(製麺)

業界のムードがやや暗い。(節句人形)

原油安や円高で輸入原材料の値上がりには歯止めが掛ったが、この程度では値下げにはつながらない。(製菓子)

納入品に対する品質が非常に厳しくなっており、人が不良品を検出するのは難しくなっている。検出するには補助設備が必要になるが、その費用を製品コストに負荷することができず、利益確保が大変。(工業用ビニールホース)

相対的に売上の多い客先からの注文が増え、売上の少ない客先の仕事を断らざるをえない状況になってしまった。(製缶)

卸売業のお客様

取引先の地元小売店がどんどん減っている。(包装資材)

トヨタの生産ライン停止でマイナスの影響があった。(工作機械)

新東名の岡崎サービスエリアのオープンで、お祝い特需があった。(生花)

景況悪化のため人員を整理。配送業務を外部に委託し、配送経費(燃料費)の節減ができた。(高圧ガス・溶接機材)

この冬は寒さが厳しかったので、売上も厳しかった。(水産物・鮮魚)

人材不足で人材の質が低下。(精密機械部品)

天候不順で海苔の収穫量が激減。仕入値が高騰。(焼海苔)

原油価格の下落で経済情勢が不安定に。先の見通しが立たない。仕入先からの値上げ要請もあり頭が痛い。(機械工具)

小売業・飲食業のお客様

昨年のような大人気キャラクター(妖怪ウォッチやアナ雪など)が今年は見当たらず、入園・入学シーズンにもかかわらず売上がダウンしている。(手芸用品)

消費が上向いているとは思えない。(玩具・ホビー)

経済対策をドシドシ押し進めて、インフレにして景気を煽ってほしい。(中華料理)

株価下落で消費意欲が減退しているようだ。とくに中小企業経営者が財布のヒモを締めている。(紳士服・婦人服仕立)

景気が良いと感じない。明らかに消費意欲が抑えられていると思う。(イタリア料理)

仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁できない。大型店との価格差が広がってしまった。(米穀店)

建設業・不動産業のお客様

伊勢志摩サミット関連の特需がある。(金網フェンス)

技術者と職人が不足。(建設業)

自動車メーカーからの受注が増え、仕事が大幅に増加。仕事量が多すぎて受けきれないことがある。(配管設備)

身近な材料仕入先や同業者が相次いで倒産したため、不本意ながら仕事の依頼が増えているが、「明日は我が身」と気を引き締めている。堅実にやらなければならないと思う。目先のことより将来のことを見極めたい。(電気通信工事)

日銀のマイナス金利政策は、住宅ローン金利の低下等を通じて当社に有利に働くと思う。(建売分譲)

2020年に省エネ住宅が義務化されるが、大手企業と中小企業とでは対応に差が出ている。新潟のハウスメーカーとビジネスパートナーになり受注が好調。(建設工事)

運輸業・サービス業のお客様

燃料価格の下落でコストは抑えられたが、相変わらずドライバー不足が続いていて厳しい状況。(鋳物・肥料の輸送)

トヨタ自動車の生産ライン停止の影響が出ている。(自動車運送業)

好景気に感じているのは大企業だけで、中小企業に好況感はない。最低賃金が毎年上がるなか、これからも厳しい状

況が続くのではないか。(貸しおしぼり)

人材が流出している。(自動車修理・販売)

天候不順で塗装作業が遅れ、納期に間にあわず、減額された。(店舗・ディスプレイ)